

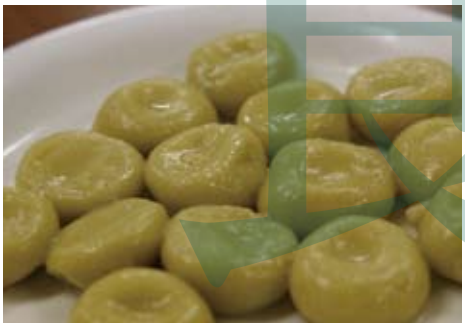





雑穀を用いた食育

目的：初等教育や社会教育における食育に雑穀を活用することを想定して、雑穀を栽培して食べるまでの過程を学習し、食育の展開方向を模索しながら、雑穀を用いた食育を実践できる人を育成する。





担当教員からのコメント

● 健全な心身の発達にとって子供の頃からの食育の実施が重要と考えるが、多くは食べることや食材にのみ感心が置かれ、作物生産がおきざりにされているのが現状である。このコースでは、食べられるものがどのようにして栽培され、管理され、収穫され、調製され、調理されて食べることができるようになるかを、きびだんごを核とした雑穀に焦点をあて、小学校における食育として実践してきた。雑穀の魅力を再発見して熱心に取り組んでいただいた市民と彼らを一生懸命サポートしてくれた学生に感謝する。（林　久喜）

● 雑穀コースの主題は食育であった。種まきから栽培、収穫、そして食べるという過程を知り、それを小学生に教えるという体験を通じて学生に食を再考してもらうことを狙いとした。参加した学生の多くは食への関心とともに市民とのふれあいを求めていた。学生の感想からは、市民と交流することで改めて自らが進めている学問の価値を知るとともに、人と人とが繋がることで生まれる何かをそれぞれが感じたことがうかがえる。市民へのサポートは相手が目指すものを共有しなければならないことを知ることができたのはないかと考えている。（大澤　良）

